

津宮史跡巡り 見どころ満載!!

# 健康ウォーキング・マップ

～古くから住み続けたこの地をたずねてみて～



## 津宮まちづくり協議会

～誰とでも親しく  
笑顔でまちづくり～

### 1 えんつうあん 円通庵

二・三区の公民館として使用されているが、真言宗智山派惣持院の末寺であった。修行的末津宮村にやって来た法印戒光(別称“おしあみ”)が、50年にわたり居住した円通庵をいつしか“おしあみ”と呼ぶようになった。おしあみ様は、自ら学問に励むとともに村人にも教え信望も厚かった。真面目な性格で生活も質素倹約、蓄えた浄財で大般若経典600巻を購入、大般若経殿を作るまでになった。それから、津宮村には次々と慶事が訪れるようになった。



二・三区の公民館として使用されているが、真言宗智山派惣持院の末寺であった。修行的末津宮村にやって来た法印戒光(別称“おしあみ”)が、50年にわたり居住した円通庵をいつしか“おしあみ”と呼ぶようになった。おしあみ様は、自ら学問に励むとともに村人にも教え信望も厚かった。真面目な性格で生活も質素倹約、蓄えた浄財で大般若経典600巻を購入、大般若経殿を作るまでになった。それから、津宮村には次々と慶事が訪れるようになった。

### 2 とうりつざんじょうさいじ 東立山浄濟寺

通称「お勢至さまの浄濟坊」と呼ばれ、一区の公民館として使用されているが、かつては真言宗智山派惣持院の末寺であった。准提観音菩薩立像、地藏菩薩座像、弘法大師像、勢至菩薩座像が納められている。今も地区の女性により勢至菩薩の信仰は守られており、1月と8月の22日の縁日は、大切に伝承されている。



### 3 いちすけじぞうそん 市助地蔵尊

かつてこの地は香取・鹿島を結ぶ津であった。香取神宮の御使いの船頭である市助は、ある日鹿島の帰りに大風に遭い、船が転覆したため溺れ死んでしまった。里人はここに埋葬し墓石を建てて供養した。地蔵尊の袈裟のでき・いぼをなでると治るといわれ信仰、そのお礼に新しい袈裟を掛けた。戦前は掛け切れない程幾重にも重なっていた。



### 4 はまとりい じょうやとう よさのあきこかひ 浜鳥居・常夜灯・与謝野晶子歌碑

香取神宮表参道の“一の鳥居”であるこの鳥居は、利根川の津宮河岸に建つ。現在の鳥居は、平成14年に竣工された。この辺りの利根川は、もともと香取が浦(香取の海)と呼ばれ、鳥居も水中に建ち、浜鳥居と呼ばれた。香取・鹿島・息栖の三社参詣の際は、この鳥居をくぐった。ここに建立されている常夜灯(日本遺産・香取市指定文化財)は、明和6年(1769年)に三社参詣の講中の人々が航路の安全を祈願し香取神宮に奉納した。高さは2.8mあり、利根川を行き交う船の目印となった。その傍らに、歌人と謝野晶子の歌碑がある。晶子は、明治34年(1911年)に銚子を訪れた際に津宮に立ち寄り、鳥居河岸の宿屋で歌を詠んだ。～かきつばた香取の神の津の宮の宿屋に上る板の仮橋～



浜鳥居



常夜灯

与謝野晶子歌碑

### 5 くぼきちくそう 久保木竹窓遺跡(墓地)

江戸時代後期の儒学者で、下総の国津宮の名主であった。久保木清英の子として宝暦12年(1762)に生まれ、幼名は新四郎、長じて清淵と称した。字は蟠龍、号は竹窓、竹陰である。国学、暦学、数学、天文学にも精通し、私塾息耕堂を開いた。『補訂鄭註孝経』を著わす、また常陸の国延方学校の講師を務め、書家でもあった。伊能忠敬は漢学、暦学を学びにきた。忠敬死後「大日本沿海実測録(14巻)」の草稿・清書を代筆し、序文、凡例、地図中の地名の記入をする。



### 6 にし みや まもりお 西の宮(膽男神社)

東の宮の西方、根本川を挟む津宮字西宮に鎮座し、香取神宮の摂社で大己貴命を祭るのが西の宮である。東の宮と同時に造営された。東西両宮とも浜手守護の神といわれている。



西の宮(膽男神社)

### 7 ひがし みや おしお 東の宮(忍男神社)

東の宮は香取神宮表参道沿いの津宮字東宮に鎮座し、香取神宮の摂社で伊弉諾命を祭る。創建は古く不詳であるが、現在の社殿は慶長12年(1607年)に徳川幕府により造営されたものである。



東の宮(忍男神社)

### 8 ただすばし 董橋(草履拔橋、じょん抜き橋)

根本川に掛かるこの橋は、香取神宮への表参道に掛かり、例幣使(注)の参向時には、ここで身を滌いだと言われ、衛兵の見張所もあったことから“董橋”の名が付き、“津宮大橋”とも呼ばれた。人々は、この場所で豊富な湧き水の流れに身を清め、衣と草履を履き替えて神宮に向かったことから、“草履拔橋”“靴脱橋”“じょん抜き橋”と転化されたともいわれる。(注)例幣使…朝廷から毎年神社に幣帛(神に奉納するもの)を奉るために遣わされる勅使



### 9 まずはらいなり 杵原稻荷神社

神道山の頂にある、香取神宮の末社の一つで、昔は東の宮、西の宮と一緒に1月15日に祭事を行っていた。社殿・朱塗りの鳥居は近年修理され、明治14年の御神燈、紀元2600年記念の手水鉢もある。穀物・農業の神である稲荷神社の狐の像もあった。神事の日には草相撲も催され、眺望に優れ展望台もあった。社殿脇に歌碑「扶美女歌 夏はきぬうら戸にたてば大利根のあさもや晴れてよしきりのなく 幹子」がある。扶美女は角田扶美、幹子は中河与一の妻で歌人。



杵原稲荷神社

### 10 しんどうやまこふんぐん 神道山古墳群

神道山の大半は香取神宮の所有地で、昔は、香取神宮が「香取山根本寺」を置き寺領として與え守護させたが、安政年間(1780年頃)廃寺となった。神道山には、古墳時代5～6世紀に構築された古墳12基があった。現在は主墳「前方後円墳」1基、陪塚と呼ばれる円墳が6基残っており、昭和52年に市指定の遺跡となった。なお、山頂には「杵原稲荷」も祭られている。



### 11 かとり じんぐう 香取神宮

香取市北東部、利根川下流右岸の亀甲山と称される丘陵上に鎮座する。下総国一ノ宮。旧社格は官幣大社で現在は神社本庁の別表神社である。祭神は経津主大神。全国にある香取神社の総本社で、全国でも有数の古社である。歴代の武家政権からは、武神として崇敬され、現在は武道分野からの信仰が篤い神社である。12年に1度の午年には式年神幸祭が行われ、約3,000人が整列する供奉行列は、荘厳である。







●健脚コース →  
距離 約5.0km  
所要時間 約2.5時間

●ファミリーコース →  
距離 約4.0km  
所要時間 約2.0時間



9 杵原稻荷神社



10 神道山古墳群



11 香取神宮

香取神宮境内にて20分程職員による説明



1 円通庵



2 東立山浄濟寺



3 市助地藏尊



4 浜鳥居・常夜灯・与謝野晶子歌碑



5 久保木竹窓遺跡(墓地)



6 西の宮(膽男神社)



7 東の宮(忍男神社)



8 董橋(草履拔き橋、じゃん抜き橋)

津宮史跡巡り 見どころ満載!!  
健康ウォーキング・マップ  
~古くから住み続けたこの地をたずねてみて~

